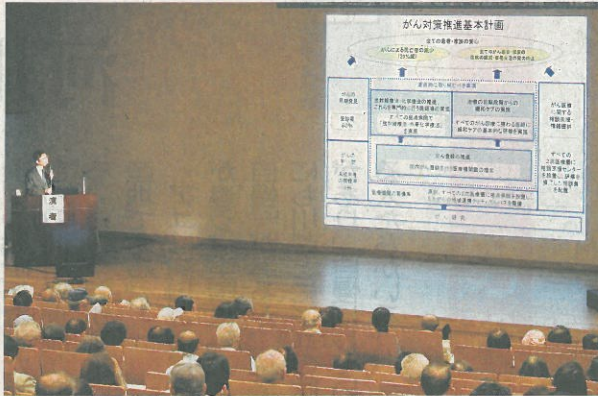


正しいがん知識持って

徳島市で 情報入手法など紹介 フォーラム



がん情報や相談支援などについての講演があった「徳島県民がんフォーラム」＝徳島市の徳島大学大塚講堂

徳島県民がんフォーラム（県がん診療連携協議会など主催、徳島大学病院がん診療連携センター、徳島新聞社共催）が25日、徳島市蔵本町3の徳島大学大塚講堂で開かれ、がんに関する情報や相談支援体制について約500人が学んだ。

国立がん研究センターがん対策情報センター長の若尾文彦さんが講演し、「国民の2人に1人ががんになって

いるが、治らない病気と怖がる人は多い。正しい知識を持てば、がんと上手に向き合える」と強調した。信頼できる最新の情報がどこにあるのかを知ることが重要だと訴えた。

その一つとして、同センターが提供するウェブサイト「がん情報サービス」(http://banho.jp)を挙げた。各種がんの基礎知識や治療の解説などが記されており、「情報は力。自らの療養を左右するので、しっかり活用してほしい」と話した。

この後、県がん診療連携協議会会長の埴淵昌毅さんが県内のが

んに対する取り組みなどについて講演した。

徳島大学病院や県立中央病院、徳島市民病

院、徳島赤十字病院、一ていることから「治療県立三好病院に設置さだけではなく、生活やれている「がん相談支援センター」に触れ、仕事の不安などの解消にもつながる。一人で医療ソーシャルワーカーや看護師らも加わっても伝えてほしい」と呼ぶ専門チームが対応し掛けた。(等井理)